

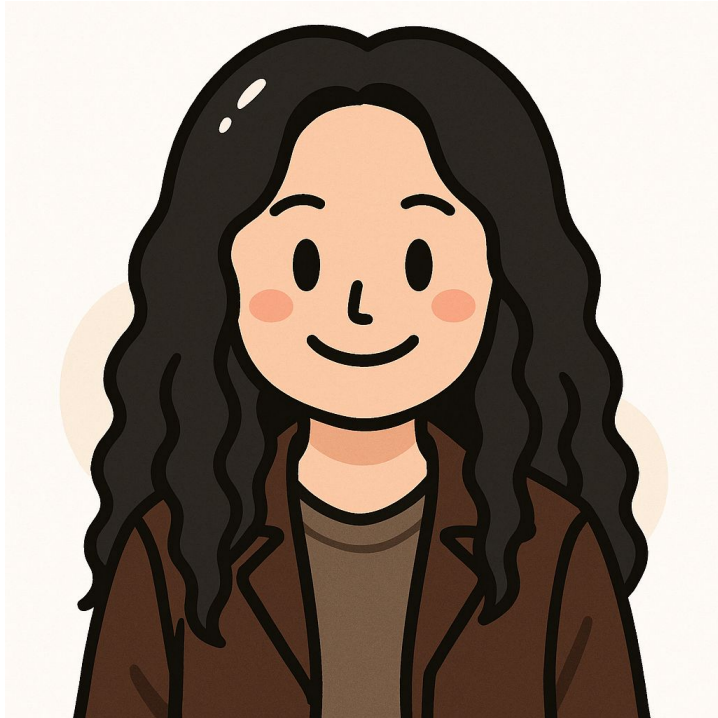
放課後等デイサービスにおける 職業準備支援の効果検証 ーBWAP2を用いたシングルケーススタディー

- 康一煒(株式会社Kaien 児童指導員・公認心理師)
梅永雄二(早稲田大学 教育・総合科学学術院)

目次

- 自己紹介
- はじめに: 研究の背景及び本研究の目的
- 事例紹介
- まとめ

自己紹介

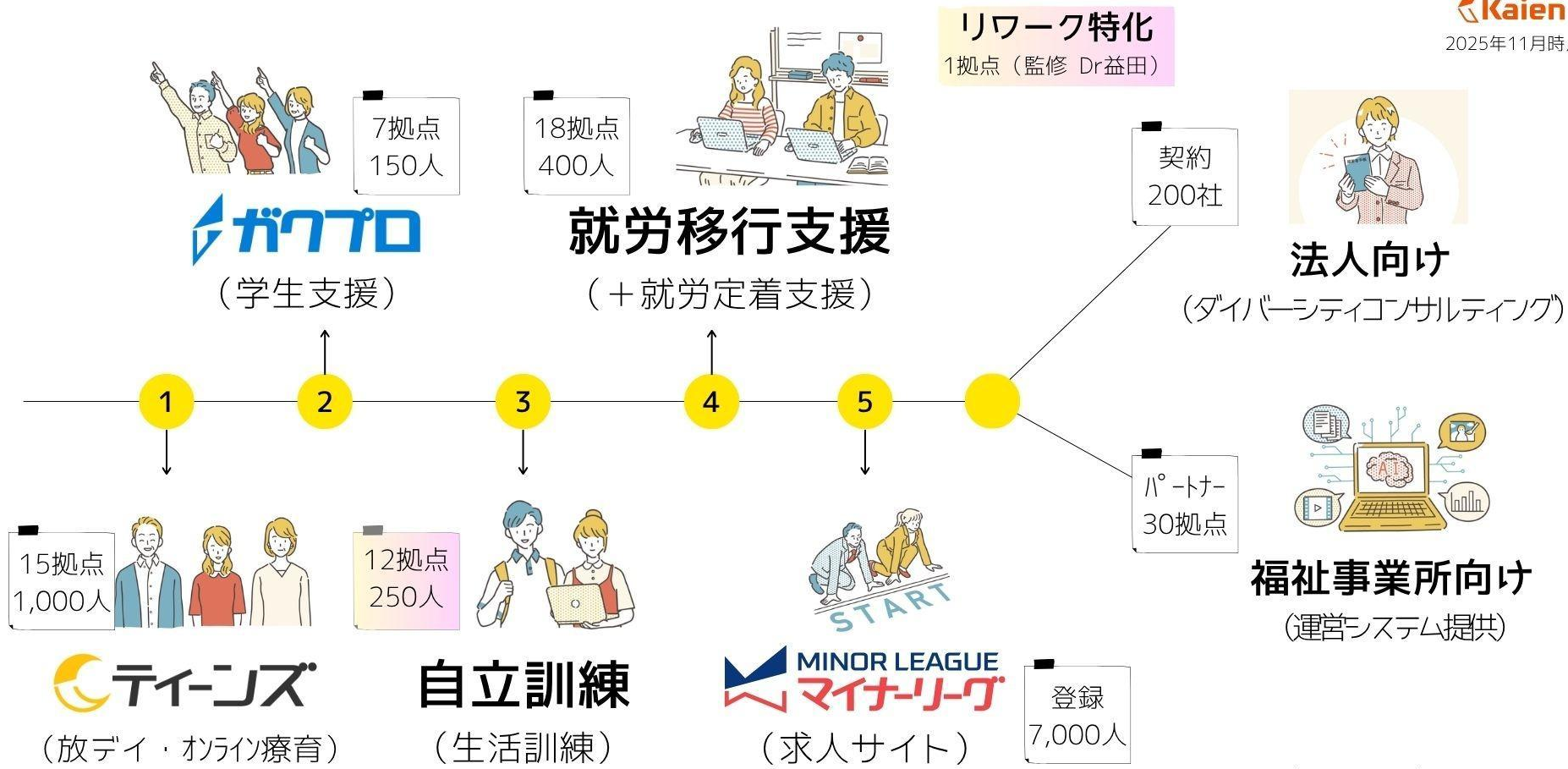


2023年9月、早稲田大学教育学研究科 発達障害児臨床心理学的研究室から卒業。

2023年10月、株式会社Kaienに入社、教育事業部にて放課後等デイサービスの現場支援を担当し、現在に至る。

Kaienについて

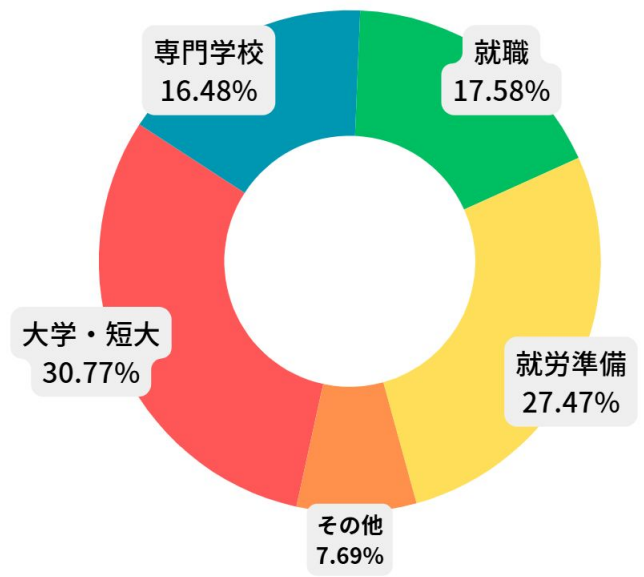
Kaien
2025年11月時点



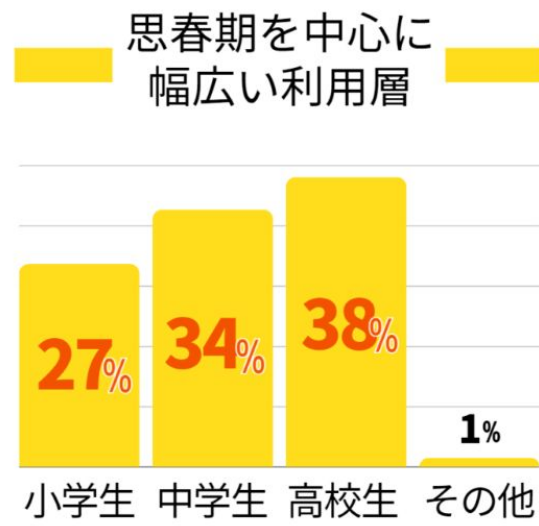
総合支援システム【ミッテル】 ～当事者・家族を支援のまんなか～

【ティーンズについて:はたらく力】

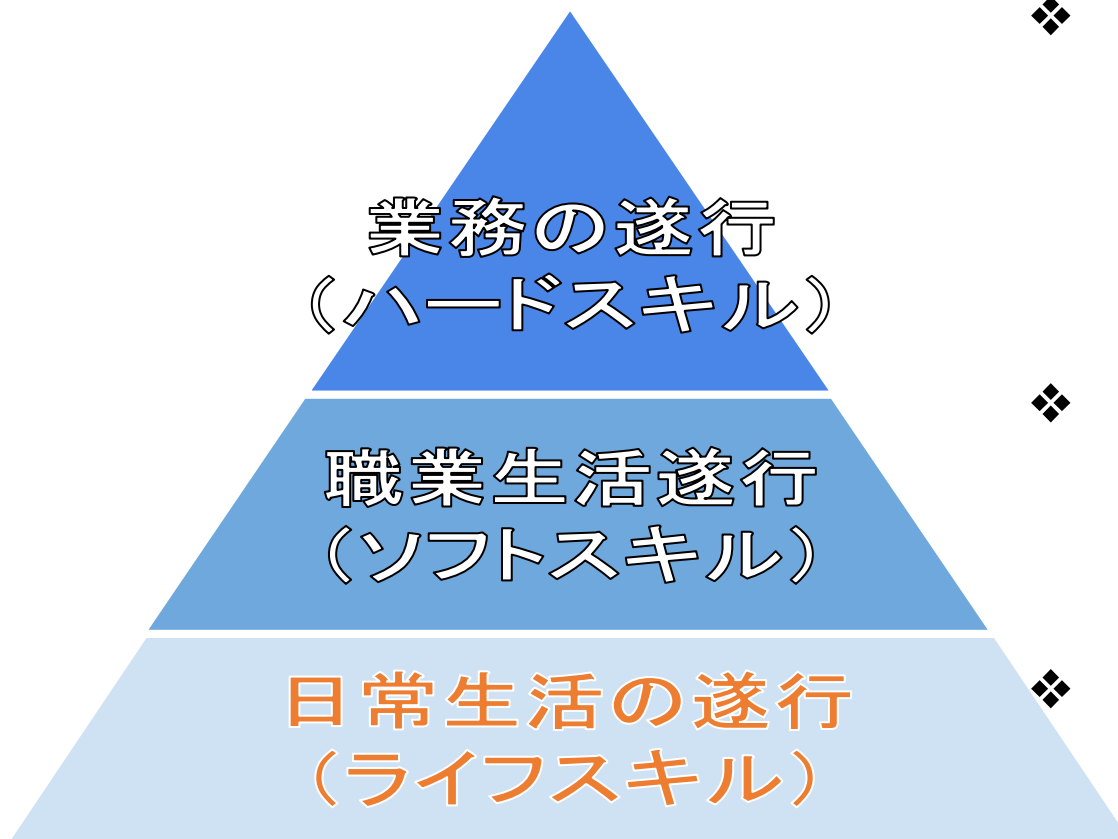
発達障害 10代: 3つのニーズと4つのステップ



高3生の進路選択 (2024データより)



はじめに：研究の背景

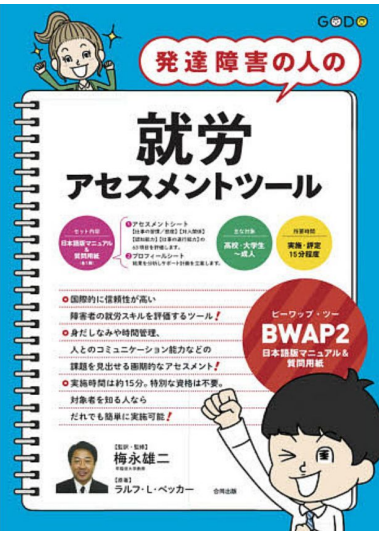


- ❖ 日本は近年障害者雇用促進法の改正で雇用率が上昇しているが、発達障害者の就職率や職場参加率は低い現状が報告されている
- ❖ 発達障害児者の社会参加には、日常生活・対人関係に必要なライフスキルの獲得が重要
- ❖ 教育体制状、キャリア教育・ライフスキル指導が不足の課題

はじめに：研究の背景

BWAP2

Becker Work Adjustment Profile
ベッカー職場適応プロフィール 2



①仕事の習慣・態度 (HA)

身だしなみ、出勤率、意欲、仕事中への姿勢などを評価

②対人関係 (IR)

社会的関わり、情緒の安定、協調性 職場での社会的やりとりを評価

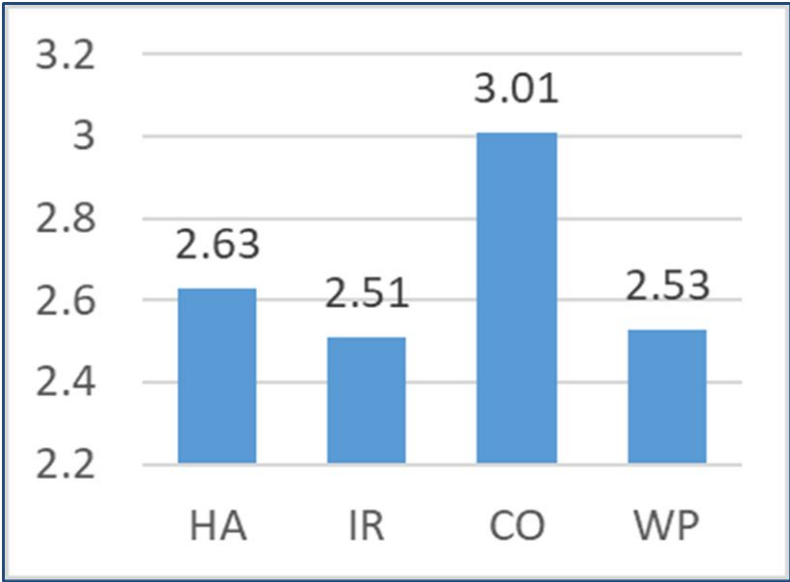
③認知スキル (CO)

読解力や計算力、判断力など、日常生活における知的なスキルを評価

④仕事の遂行能力 (WP)

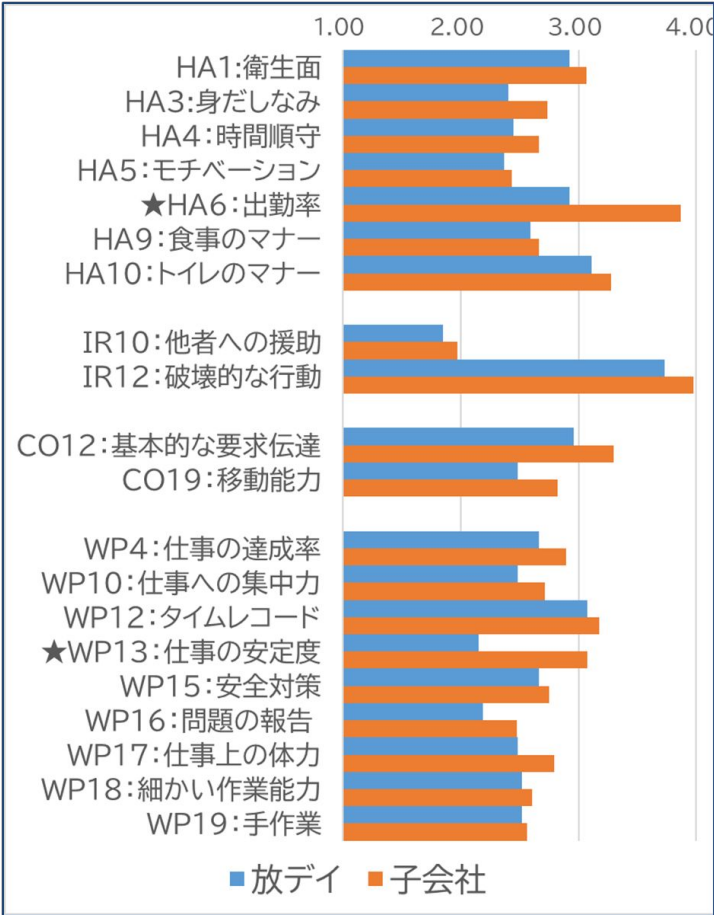
作業スキルや、作業を行う上で必要なスキルを評価

はじめに：研究の背景



4領域平均得点の比較

出典：康一煒（2023）「成人期の自立、社会参加を目指した発達障害児の指導－BWAP2に基づくライフスキルアセスメントの活用とその検討－」



特例子会社と比較する際、放デイ群の平均得点が低い下位項目

はじめに：本研究の目的

放課後等デイサービスティーンズに通う発達障害のある高校生1名に対し、2年間の支援がもたらした成長を、職場適応プロフィールBWAP2を用いて検証する。

1. BWAP2の各領域および下位項目の変化
2. ティーンズにおける指導内容が成長への寄与
3. 今後の発達障害児への支援における示唆と課題





事例紹介

- 対象者：ユウタさん（仮名）ティーンズを利用していた発達障害のある高校生1名
- 実施内容：保護者から同意を得て、ティーンズでの活動様子に基づき、16歳時及び18歳時に2回BWAP2の評価を実施した。
- 評価ツール：BWAP2の4領域、全63項目を0～4点の5段階で評価される。2年の指導経過を比較し、4領域それぞれの変化、下位項目ごとの得点変化についても詳細な比較検証を行った。

介入内容：平日個別セッション


オリジナル教材や個別面談を通して、目標設定、自己理解が進め、活動状況や変化を継続的に把握した。
就職活動の進捗に応じ支援目標と対応を柔軟に調整し、スモールステップでスキル習得を支援した。

■曜日と時間

1コマ目	15:20-15:50
2コマ目	16:00-16:30
3コマ目	16:40-17:10
4コマ目	17:20-17:50
5コマ目	18:00-18:30

■平日セッションでできること

1 計画立て (10分前後)




スタッフと以下を確認しながら、今日することを決めます。


- ・コンディション
- ・取り組むべきこと
- ・優先順位・締め切り

自分の状況を把握し、見通しを立てる練習をしていきます。


2 個別セッション (30分~2時間)




学習サポート



面談



サブリ




お子さん

計画に沿って取り組みます。
1コマ：30分
利用できるコマ数：3コマ


■取り組む内容例

- ・学習面のサポート
- ・個人面談（近況/進路相談）
- ・ライブ講座/動画教材

3 振り返り (10分前後)



お子さん



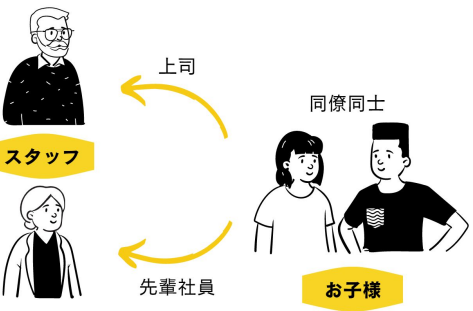
スタッフ

その日の計画の達成度を、スタッフと振り返ります。
次回TEENSですることや学校・家庭で行うことも整理し、継続的にサポートしていきます。

介入内容:週末お仕事体験

疑似職場で仕事を”試着”
明確な目標設定することで、就労準備性の向上、ライフスキルの獲得

■コースと時間

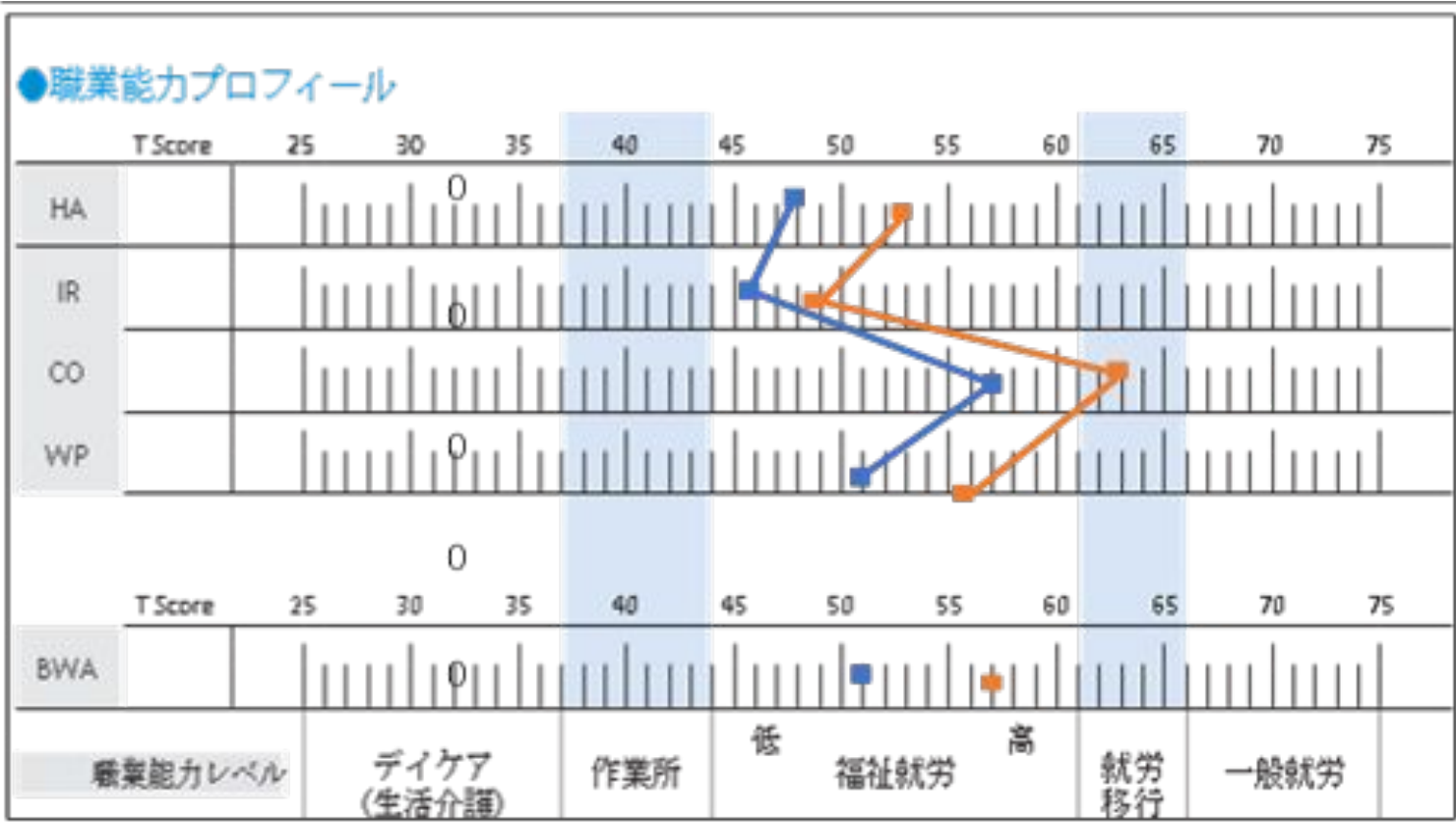


■30以上の仕事と身に付く”ソフトスキル”



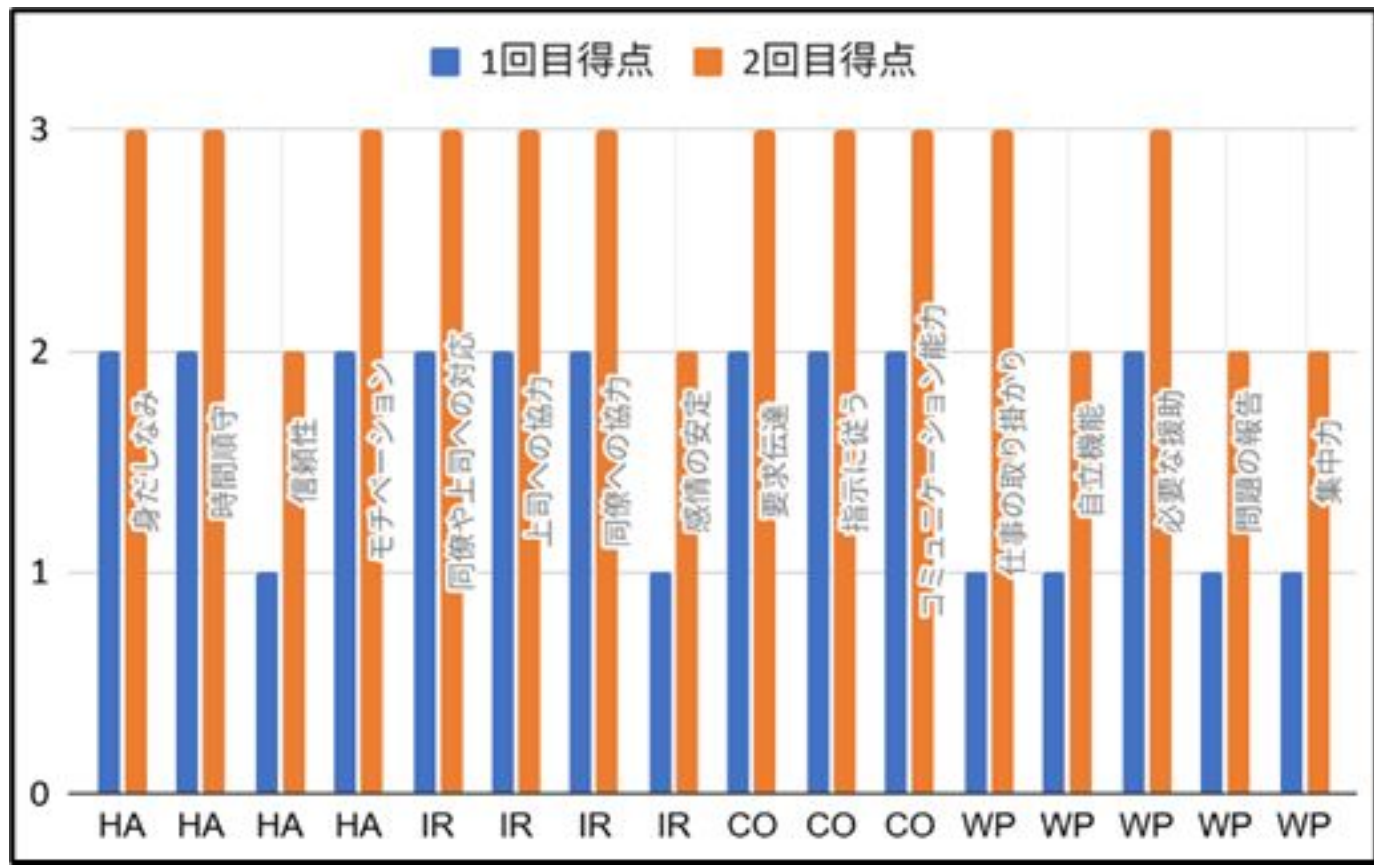
マニュアル、モデリング、フィードバックも活用し、BWAP2の課題項目に合わせた環境の構造化と指導

結果：BWAP2の2年間における変化



■ 1回目 ■ 2回目

結果：各領域下位項目におけるスコアの変化



結果：仕事の習慣/態度（HA）

目標となった項目	支援での介入
モチベーション付け と信頼性	<ul style="list-style-type: none">・職場実習のタイミングに合わせて目標 設定面談、課題の振り返り面談・面談で整理した課題について毎回の 「お仕事体験」でも小さな目標を設定し、 実践的に練習を行う
変化：支援前には作業への取りかかりや休憩からの切り替え タイミングにボーとすることが多かったが、結果、報告で自ら目 標の達成度について話したり、自分から進んで追加業務を行 うといった主体的な行動もあった。	

結果：対人関係（IR）

目標となった項目	支援での介入
パターン化された 職場マナー	<ul style="list-style-type: none">・具体的な目標設定を本人に共有：「話している相手を見る」「質問するときは前置きをする」「敬語を使う」・実践の場面でモデリングを示す
変化：相手の状況を見ずに声掛けをしたり、自分のことに集中して話す相手に向かなかったりすることがありましたが、「今いいですか」などのクッション言葉を使え、同僚にも敬語で話すことができるようになった	

結果：認知能力（CO）

目標となった項目	支援での介入
自分の状況を伝える コミュニケーション能力	スモールステップでの支援： クローズドクエスチョン⇒「今の状況を教えてください」といったオープンクエスチョンへ
変化：初期段階では、質問に対し反応がなかったり、自分の状況を伝えられなかったりする場面が多く見られた。結果として声かけられた際には「今考えているのでちょっと待ってください。」を言えるようになった。	

結果：仕事の遂行能力（WP）

目標となった項目	支援での介入
自立的にルーティンへに取り組み	可視化したスケジュールとマニュアル
<p>変化：スケジュールを事前に確認し、スタッフからの声かけを通じて、自分の状況を説明しつつ業務の区切りで切り替えができるようになった。</p> <p>疲れている際にも「お茶を飲んで、やります」と自ら切り替え、業務に戻るといった自己管理能力の向上も見られた。</p>	

まとめ

- ・ゆうたさんのBWAスコアは2年間で51から57に上昇し、成長が客観的に示された。
- ・特性に合わせた実体験に基づくティーンズでの個別指導が器用していた。
- ・職場実習などご本人の移行段階に合わせた目標設定、振り返りなどの面談、ご家庭とのこまめの連絡から支援を調整するPDCAサイクルが定着に貢献した。
- ・BWAP2を活用した継続的フォローアップはの有効なモデルを示す。